



# ふれあい 放水路

1997  
(平成9年)  
第38号  
5月



## 立久恵峡 五百羅漢

立久恵峡にある靈光寺れいこうじの参道下の岩壁に石の群像があります。まるで岩から生まれ出たようで、辺りへんり一带幽寂な雰囲気ふんいきが漂っています。

これは先祖供養のために奉納されたもので、大正八年、靈光寺創建の時、創建に携わった人々の手によつてはじまりました。

初めはその名のとおり五百体の羅漢像造立を目指していましたが、いつのまにかその動きはなくなつてしまいました。

これを引き継ぎ、五百羅漢のかたわらに石仏を建立していこうと、昭和四十八年に「立久恵峡千体仏の会」が発足し、今ではその数が優に千体を越えています。

石仏は、大きさ、石質とも同じものですが、その種類は地藏菩薩、観音菩薩など様々です。また、人の心を表しているのでしょうか、顔かたちなど、人それぞれが異なるように、石仏もいろいろな表情を持っています。

# 平成9年度の放水路事業計画

拡幅部では、昨年度に引き続き、古志橋、崎屋橋、新内藤川水門、山崎上橋を施工するとともに、新たに半分大橋の施工や下流部で新堤防の施工に着手します。  
 また、拡幅部工事区域内の工事用専用道路・橋梁の整備を行います。  
 一方開削部では、残土処理場の準備工事として新たにA谷の工事用道路の施工に着手します。  
 事業用地内の除草については、地域の皆様にご迷惑をおかけすることのないよう、適切に実施していきます。  
 本年度も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

**神戸川下流右岸側に流入する新内藤川では新内藤川水門を施工します。**

**崎屋地区では崎屋橋の橋脚2基、橋台1基と堤脚水路などを施工します。**

**古志橋では橋台1基を施工します。また、右岸側(塩冶側)の取付道路の擁壁を施工します。  
 \*擁壁とは、盛土などの土が崩れないようにするためのコンクリートの壁です。**

**開削部ではB谷の防災調整池の施工と、残土処理地の地盤改良を行います。また、A谷では工事用道路を施工します。**

**境島地区では軟弱地盤対策工事を施工します。**

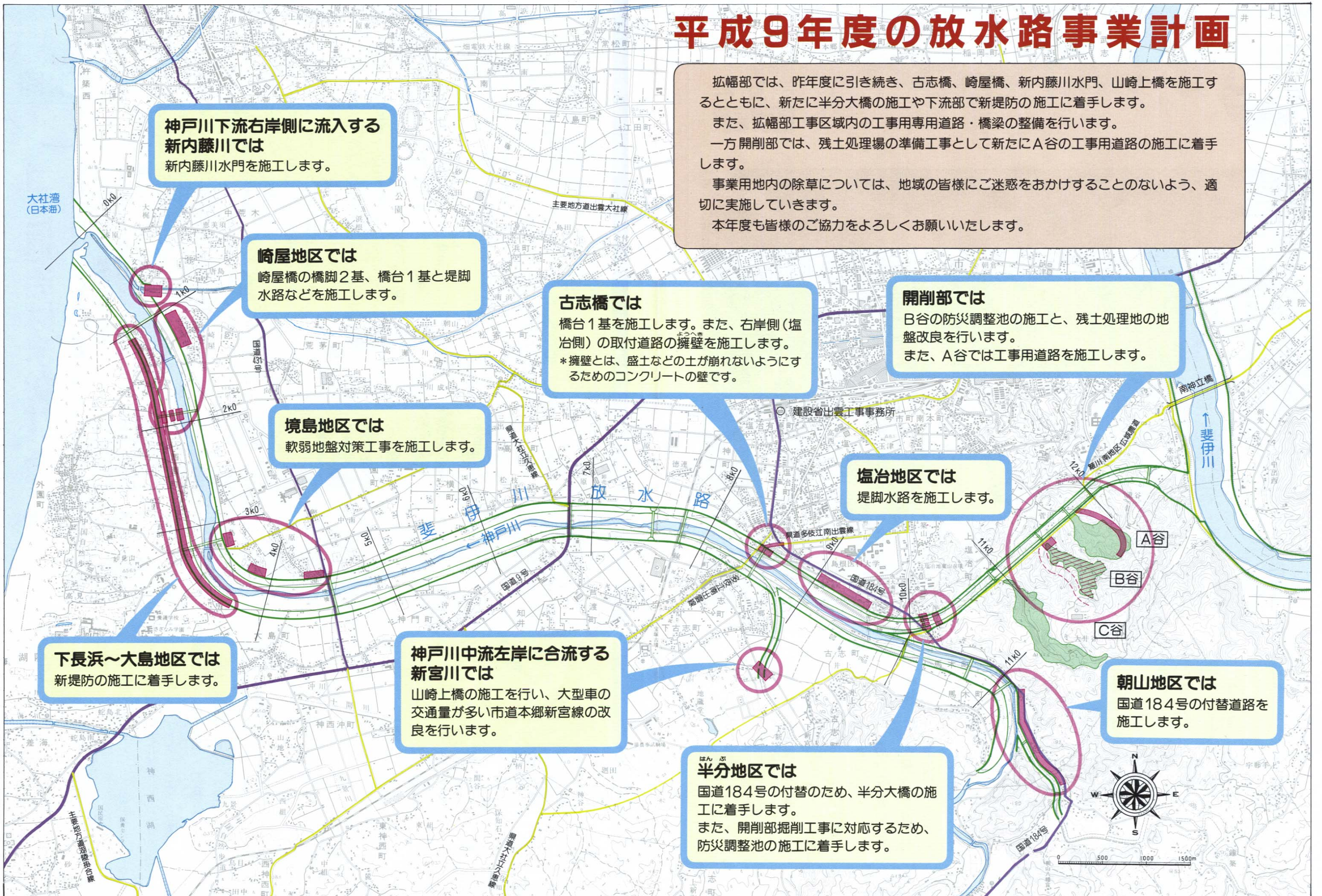
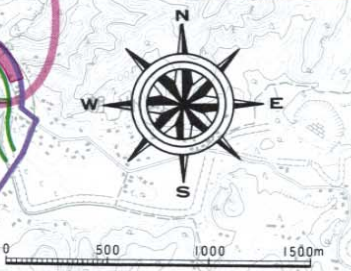
**塩冶地区では堤脚水路を施工します。**

**下長浜～大島地区では新堤防の施工に着手します。**

**神戸川中流左岸に合流する新宮川では山崎上橋の施工を行い、大型車の交通量が多い市道本郷新宮線の改良を行います。**

**半分地区では国道184号の付替のため、半分大橋の施工に着手します。また、開削部掘削工事に対応するため、防災調整池の施工に着手します。**

**朝山地区では国道184号の付替道路を施工します。**



ふれあい  
**放水路**  
通信

**ゴミ退治はまかせなさい！**

**新湖面清掃船「おろち丸」就航**

出雲工事事務所では、宍道湖・中海水域に浮遊、及び漂着するゴミを湖面清掃船により収集しています。今回、十五年間活躍した「こせい丸」に替わり、新しい清掃船「おろち丸」が完成し、四月二十三日、松江市の白潟公園で島根・鳥取両県及び周辺市町の来賓の方の列席のもと、就航式を行いました。

おろち丸は、斐伊川水系の「ヤマタノオロチ伝説」にちなんで命名したもので、全長十六メートル、総重量約十五トンの双胴船（二つの舟をつなぎあわせた形）です。最大時速は約十五キロで、こせい丸に比べ約一・六倍の速さです。新たに回転式ブラシを船の前側に取り付け、効率的なゴミの収集を図っています。また、大きな船体が近づけない場所でも作業が行える補助作業船「みこと丸」を載せており、従来と比べ、ゴミ収集作業のスピード、能率ともにグンと上がりました。

ところで、一体どのくらいのゴミを収集すると思いますか？ 昨年度は約一九〇日稼働し、年間約二二〇トンのゴミを収集しました。流木などの自然ゴミだけでなく、近年はビニール袋や空き缶なども増えています。おろち丸の就航により今後ゴミの収集量は増えていくと思いますが、その前に一人一人が川や湖を汚さないよう、心がけましょう。



**5月は水防月間です**  
みずから守ろう  
みんなの地域



**建設省中国地方建設局  
出雲工事事務所**  
〒693 出雲市塩冶原町5丁目1番地  
☎(0853)21-1850

本誌に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。

問い合わせ先：ふれあい放水路担当

**アユの放流**

今年も神戸川にアユの稚魚が放流されました。

毎年四月下旬から五月上旬までの間、数回に分け、神戸川漁協の方により、上流は頓原から下流は出雲市の馬木地区まで数カ所に放流されます。

アユは鹿児島島の海産、高津川産（益田市）、琵琶湖産のもので、現在の大きさは七、八センチ、四グラム程度。全部で約五〇万尾もの稚魚が放流されました。六月十五日のアユ漁解禁日までは成長し、釣り人たちを楽しませてくれるということです。